

(様式8)

公共事業終了箇所評価調書

評価確定日(令和3年9月30日)

事業コード	R03-農-終-04	区 分	●国庫補助 県単独
事業名	経営体育成基盤整備事業	部 局 課 室 名	農林水産部農地整備課
事業種別	ほ場整備	班 名	農地整備班 (tel)018-860-1824
路線名等	三条川原	担 当 課 長 名	舛谷 雅広
箇所名	大仙市北野目	担 当 者 名	小嶋 幸喜
政策コード	03	政 策 名	新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略
施策コード	03	施 策 名	秋田米の戦略的な生産・販売と水田フル活用
指標コード	04	施策目標(指標)名	複合型生産構造への転換を支える基盤整備の促進

1. 事業の概要

事業の背景及び目的	本地区は、秋田市より南方約40kmの圏内にあり、一級河川雄物川と一級河川土貫川との合流地点に位置する。大正14年～昭和9年に開田事業により10a区画の整備が行われたが、地区内の区画・道路ともに狭小で農作業効率化の阻害要因となっている。また、用排水路は土水路であり法崩れや漏水が著しく、維持管理に多大な労力を費やしている状況である。 こうした状況を踏まえ、本事業により地区の形状にあった区画の拡大・用排水路の分離及び装工・農道の整理・暗渠排水を一体的に整備し、農地の汎用化を図るとともに、農地所有適格法人に集積し、低コスト農業経営の実現と土地利用型農業の確立を図るものである。						
	事業期間	前回(H25年) H26年 ~ R1年 終了 H26年 ~ R1年	総事業費	前回(H25年)13.3億円 終了 18.6億円	国庫補助率 55%		
	事業規模	前回(H25年) 区画整理工 78.9ha 終了 区画整理工 78.9ha					
	事業費内訳内容(千円)及び要因変化		前回評価計画①	最終②	増減②-①	理由	
		事業費	1,330,000	1,857,000	527,000	地下かんがいシステム導入及び軟弱地盤対策の増等	
		経内費	工事	1,137,000	1,656,000	519,000	
			用補	13,000	5,180	-7,820	
	その他		180,000	195,820	15,820		
	事業内容	区画整理 78.9ha 暗渠排水 78.9ha 測量設計 用地補償	区画整理 78.9ha 暗渠排水 78.9ha 測量設計 用地補償	区画整理 0.0ha 暗渠排水 0.0ha 測量設計 用地補償			
	コスト・効果対比較	費用便益変化の主な要因(前回評価→終了)					
○最終コスト 終了C②/前回評価C①=(1.40)	【便益】 2,230百万円 → 2,309百万円 水稻以外の作物(えだまめ等)の作付面積の増						
○費用便益 前回評価B/C=(1.49) ↓ 終了B/C=(1.19)	【費用】 事業費の増 1,330百万円 → 1,857百万円 区画整理工 軟弱地盤対策工の追加 暗渠排水工 地下かんがいシステムの導入(補助暗渠排水工含む)						
目標達成率	指標名	評価箇所における担い手等への農地集積率					
	指標式	地区内の担い手等の経営面積÷ほ場整備地区面積					
	指標の種類	●成果指標 業績指標	低減指標の有無	有 ●無			
	目標値a	89.9%(71.0ha)	データ等の出典	a: 活性化計画書			
	実績値b	89.9%(71.0ha)		b: 流動化達成状況報告書			
	達成率b/a	100%	把握の時期	R3年3月			
指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 ○指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 ※データの出典含む							
自然環境の変化	整備に当たっては、地区外に泥水を流さないよう汚濁防止対策を実施するなど環境に配慮した。自然環境の変化は特にはない。						
社会経済情勢の変化	米政策の見直しなど農政改革を受け、米のみに依存しない複合型生産構造の確立が求められており、「第3期ふるさと秋田元気創造プラン(H30~R3)」においても、重点戦略の重要な取組の一つとして「産地づくりと一体となったほ場整備の推進」を図ることとしている。						
事業終了後の問題点及び管理・利用状況	ほ場は適切に管理されており、事業効果が発揮されている。また、事業を契機として、農地所有適格法人3組織に地区面積の89.9%が利用集積されるなど、効率的な営農が展開されている。						

住民満足度等の状況 (事業終了後)	①満足度を把握した対象 ●受益者 ●一般県民 (時期:R3年7月) ②満足度把握の方法 ●アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の方法 (具体的に) ③満足度の状況 アンケート調査の結果、ほ場整備の総合評価について、受益者(回答者129名)の84%が「満足・ほぼ満足」、地域住民(回答者22名)の86%が「実施してよかった」と評価しており、高い満足度が得られている。
上位計画での位置付け	「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」 戦略作物等の産地づくりと一体となったほ場整備を推進し、併せて農業法人など地域の中核となる経営体への農地集積を促進することにより、効率的な農業経営への転換を図る。
関連プロジェクト等	なし
前回評価結果等	●選定または継続 改善 見直し 保留又は中止 ①指摘事項 なし ②指摘事項への対応 なし

2. 所管課の自己評価

観点	評価の内容(特記事項)	評価結果
有効性	①住民満足度の状況 ●A ○B ○C アンケート調査の結果、ほ場整備の総合評価について、受益者(回答者129名)の84%が「満足・ほぼ満足」、地域住民(回答者22名)の86%が「実施してよかった」と評価しており、高い満足度が得られている。	●A ○B ○C
	②事業の効果 ●A 達成率100%以上 ○B 達成率80%以上100%未満 ○C 達成率80%未満 担い手等への農地集積割合の達成率は100%であり、事業による有効性は高い。	
効率性	①事業の経済性の妥当性 ●A ○B ○C 費用便益比は1.19であり、経済性は妥当である。	●A ○B ○C
	②コスト縮減の状況 ○A 縮減率20%以上 ○B 縮減率20%未満 ○C 縮減なし	
総合評価	●A (妥当性が高い) ○B (概ね妥当である) ○C (妥当性が低い) ○水稻を基幹作物として、大豆、えだまめなどの複合作物に取り組むなど、事業の効果が発現している。 ○有効性、効率性とも評価が高く、農家や地域住民から高い満足度が得られており、事業の妥当性は高い。	

3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

ほ場整備を契機として設立された農業法人など地域の中核となる組織が、体質強化を図っていくことが地域農業の発展につながることから、農地集積による経営規模の拡大を図るよう指導していくほか、地域農業の目指す姿に応じた整備、高収益作物の導入による複合経営への取組を一層推進していきたい。
--

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

○総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価
A(妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A
B(概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合	
C(妥当性がない)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合	